

⑩ 体育学グループ運営委員会

本委員会は、20年7月、9月、10月の計3回開催し、体育教育における学士力を検討した。学士力としては、体育学士としての学士力を規定するのではなく、主に体育学部以外の学生が体育を受講した際に身につけるべき能力や態度について検討することとした。内容については、体を動かすことの喜びを知り、生涯健康維持に努める力、スポーツを通じて協調性、コミュニケーションの力を養うことを基本に、①身体運動を通して健康な体作りを科学的に理解できる、②身体を動かす喜びを実感し、生活の質の向上に役立てる、③身体活動・表現をとおしてコミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てる、④スポーツ競技力の基礎知識が習得可能として整理し、インターネットで体育学担当教員（サイバーFD研究員）293名に意見を求めたところ、43名から「社会とのかかわりについての言及が不足、スポーツと文化・歴史との関連の理解が必要」などの意見を踏まえ、以下の通り中間的にとりまとめた。

<体育学教育における学士力>

1. 身体運動を通して、健康の維持増進の重要性を学術的に理解できる。
2. 身体を動かす喜びを実感し、個人および社会の生活の質の向上に役立てることができる。
3. 身体活動・表現を通して、コミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てることができる。
4. スポーツ競技に関する知識・技能を習得し、スポーツの発展に役立てることができる。